

第40回 「歯科医学を中心とした総合的な 研究を推進する集い（令和6年度）」

抄 録

日 本 歯 科 医 学 会

ま え が き

学問，研究は，狭い分野の中だけで努力しても，その発展には限界があります。歯科医学をより発展させるためには，分化した各専門領域の間で情報を交換し，交流の輪を広げることが必要であります。

そこで，科学情報も多岐にわたるなか，臨学産が協同し，学際分野との交流を通して，互いにジャンルを超えた研究者がともにグループを作り，異なる視点から新しい要素を加え，研究の活性化をはかるならば，そこには素晴らしい研究成果が期待されます。

このような視点から，今年度も大きな，幅広い構想を持つ研究者の方々に発表の場を設け，参会者と自由に意見交換し，同志を募っていただくことを目的として，第40回の「集い」を開催することといたしました。

この「集い」が，形式にこだわらない自由な雰囲気の中で，率直に意見を交換する場となりますよう，皆様のご協力をお願いいたします。

なお，演者一人につき，口演時間を20分，その後の質疑応答を10分といたします。

第40回「歯科医学を中心とした総合的な研究を推進する集い」日程

日時 令和6年11月27日(水) 午前10時

場所 歯科医師会館 1階 大会議室

主催 日本歯科医学会

[司会] 日本歯科医学会学術研究委員会副委員長 仲野和彦

10:00 ~ 10:10 開会式

開会の辞 日本歯科医学会副会長 小林隆太郎

主催者挨拶 日本歯科医学会会長 住友雅人

経過報告 日本歯科医学会常任理事 末瀬一彦

10:10 ~ 10:40 1. 超音波診断装置は口腔機能の定量的評価に応用可能か？

一口腔機能発達不全症・オーラルフレイルの評価指標への挑戦—

演者：芳賀秀郷(昭和大学歯学部 歯科矯正学)

(10:30 ~ 10:40) 質疑応答

座長：小松知子(日本歯科医学会学術研究委員会委員,
神奈川歯科大学 全身管理歯科学)

10:40 ~ 11:10 2. 蛍光観察による口腔がんのスクリーニング

演者：森川貴迪(みつわ台総合病院 歯科口腔外科)

(11:00 ~ 11:10) 質疑応答

座長：戸谷収二(日本歯科医学会学術研究委員会委員,
日本歯科大学新潟病院 口腔外科)

11:10 ~ 11:40 3. XAI(説明可能AI)技術を活用した次世代口腔リスク診断システムの開発

演者：財津崇(東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
健康推進歯学)

(11:30 ~ 11:40) 質疑応答

座長：片倉朗(日本歯科医学会学術研究委員会委員,
東京歯科大学 口腔病態外科学)

11:40 ~ 12:10 4. 漢方薬は「オーラル・フレイル」の予防に貢献できるか

演者：星野照秀(東京歯科大学 口腔病態外科学)

(12:00 ~ 12:10) 質疑応答

座長：山口秀紀(日本歯科医学会学術研究委員会委員,
日本大学松戸歯学部 歯科麻酔学)

12:10 ~ 13:00 〈休憩〉

13:00 ~ 13:30 5. 軽度認知障害患者の唾液中口腔細菌叢およびタンパクを標的としたスクリーニング法の開発および歯周病治療による認知機能低下予防の検討

演者：出分 菜々衣（松本歯科大学 歯科保存学）

(13:20 ~ 13:30) 質疑応答

座長：増田 宜子（日本歯科医学会学術研究委員会委員，
松本歯科大学 歯科保存学）

13:30 ~ 14:00 6. 高齢者の口腔感染症の防止と介護者の負担軽減に資するCPC徐放・リチャージ義歯の開発

演者：中西 康（北海道大学大学院歯学研究院 生体材料工学）

(13:50 ~ 14:00) 質疑応答

座長：西村 正宏（日本歯科医学会学術研究委員会委員，
大阪大学大学院歯学研究科 クラウンブリッジ補綴学・顎口腔機能学）

14:00 ~ 14:30 7. 天然歯と同等の歯周組織構造を有する次世代バイオインプラントの開発

演者：大島 正充（徳島大学大学院医歯薬学研究部 顎機能咬合再建学）

(14:20 ~ 14:30) 質疑応答

座長：江草 宏（日本歯科医学会学術研究委員会委員，
東北大学大学院歯学研究科 分子・再生歯科補綴学）

14:30 ~ 14:35 閉会式

閉会の辞 日本歯科医学会副会長 川口 陽子

「集い」終了後，14:40より会場横のホワイトにてポスターディスカッションを行います。

(~15:20)

1. 超音波診断装置は口腔機能の定量的評価に応用可能か？

—口腔機能発達不全症・オーラルフレイルの評価指標への挑戦—

○芳賀 秀郷 梅原 郷人 赤塚 加奈子 小林 理香 山城 美咲
たか かせ なか の はる ひさ
高風 桃子 中納 治久

(昭和大学歯学部 歯科矯正学)

座長 小松知子 (神奈川歯科大学 全身管理歯科学)

①研究の背景 (これまでの実績を含む) と目的

口輪筋、舌、咀嚼筋を含めた口腔周囲筋は、歯列弓及び顎顔面形態や不正咬合と密接に関連している。我々はこれまで、口腔周囲筋を非侵襲で簡便に評価可能な超音波診断装置に着目し研究を進めてきた。学童期(6歳-11歳)の舌は、増齢に伴い弾性が増す事を解明し [Akatsuka, Haga et al. *Clinical and Investigative Orthodontics* 2023 (第8回日本矯正歯科学会論文賞)], 咬筋の筋質評価では、筋厚と握力や舌圧との相関や筋輝度とBMI含む全身との関連性を解明した [Kobayashi, Haga et al. *Journal of Physical Therapy Science* 2024]。

②研究内容の斬新性

骨格筋の評価としてCTやMRI, DXA等が挙げられるが、大掛かりな設備が必要、かつ、放射線被曝等の問題もあった。さらに静止画像での評価には限界もあり、機能解析においては動的なリアルタイムの評価が望まれていた。超音波診断装置による骨格筋の評価は、これらの問題をクリアでき、さらに医科や理学療法領域では既に広く普及している点からも信頼性が担保されている。よって、超音波診断装置を歯科領域に応用し、筋機能評価としての活用することは、新規性・独自性に富んだ研究であると考えている。

③研究の発展性・進展性

口腔周囲筋の評価はこれまで「力」や「形態」等で判断していた。一方で、客観的な診断や経時的変化を把握するためには、筋性質の把握が重要である。内閣府の「経済財政運営と改革の基本方針2022」(骨太の方針)では、オーラルフレイル対策・疾病の重症化予防等の充実が示され、口腔機能維持の重要性に対する社会の認識が高まっている。さらに、口腔機能低下症や口腔機能発達不全症の保険導入もその広がりを加速させている。よって、口腔機能の定量的評価を目指す本研究は、発展性・進展性が望まれ、社会的にも大きな意義があるものと考えている。

④関連領域とのグループ形成の有用性

先に述べたように、超音波診断装置による骨格筋の評価は医科や理学療法の領域では既に広く普及しているが、歯科領域における筋機能評価としての活用は一般的ではない。よって、放射線学分野や超音波医学分野等との連携・グループ形成により、本研究の進展性や実現可能性は一層高まるものと考えている。さらに、臨学産協同を含めた学際分野との交流を通じて、異なる視点からの新しい要素が加わることにより、研究という枠のみならず社会への発信や社会実装への道筋が開けるものと期待している。

⑤倫理性 (該当するものに○印)

- ① 倫理委員会の承認を受けている。
2. 今後、倫理委員会の承認を受ける予定である。
3. その他 ()

希望する協力分野：放射線学分野, 超音波医学分野, システム開発含む産業分野, 画像解析分野

2. 蛍光観察による口腔がんのスクリーニング

○^{もり}森川 ^{かわ}貴^{たか}迪^{みち}¹⁾ ^え江口 ^{ぐち}淳^{じゅん}¹⁾ ^{しば}柴原 ^{はら}孝^{たか}彦^{ひこ}²⁾

¹⁾ みつわ台総合病院 歯科口腔外科

²⁾ 東京歯科大学 口腔顎顔面外科学)

座長 戸谷収二 (日本歯科大学新潟病院 口腔外科)

①研究の背景 (これまでの実績を含む) と目的

我が国における口腔がんは年々増加している。近年の口腔・咽頭がんの米国の死亡率は6.0% (American cancer society 2024年より) に対し、我が国では36.5% (国立がん研究センター2021年より) と非常に高い。その理由として、我が国の口腔がんの進行期の比率が多いことが原因の1つであり、早期発見・早期治療が望まれる。口腔がんの早期発見が困難な理由として、口腔内にはさまざまな病変が発生し、鑑別に苦慮することが挙げられる。

口腔がんのスクリーニングには、細胞診や生体染色、組織診がある。組織診は最も精度が高く、ゴールドスタンダードであるが、侵襲を伴う。細胞診は軽度の侵襲があり、1~2週間の時間がかかる。生体染色は、侵襲は軽度であり、タイムラグは生じないものの、歯肉や口蓋には使用できず、また染色後に微細な変化を見ることができなくなる。

そこで、侵襲のない蛍光観察を着目し、その有効性を検証してきた (Morikawa et al. International Journal of Oral and Maxillofacial Surgery 49, 515-521, 2020. Impact factor 2.8)。本研究では、蛍光観察や細胞診、生体染色を比較し、口腔がんのスクリーニングの有効性を検証し、新たなスクリーニング法の確立を目的とした。

②研究内容の斬新性

これまで、細胞診や生体染色を同時に比較した報告はない。また、蛍光観察も視覚的で主観的な評価のみであった。本研究では画像解析を行うことで、他覚的で定量的評価が可能となった。

③研究の発展性・進展性

口腔がんのスクリーニングツールとして発展が期待される。さらにAIを用いることで、多くの統合解析に進展できると考える。また、蛍光に着目した解析を進めることで新たな biomarker の特定に結びつくと考えられる。加えて、口腔がん手術への応用についても期待される。特に下顎・上顎歯肉がんや口蓋がんでは、生体染色は使用できず、水平的な進展は、肉眼的所見に頼らざるを得なかった。蛍光観察により、局所再発を軽減し、さらには生存率の上昇が期待される。

④関連領域とのグループ形成の有用性

病態把握のために病理・病態学との連携は必要不可欠である。蛍光観察に画像解析を加えるため、色彩学・光線力学を要する。AIによるデータ解析が必要であるため、データサイエンスや新規医療機器の開発にもつながり医療工学ともグループ形成し、研究協力できると考える。

⑤倫理性 (該当するものに○印)

① 倫理委員会の承認を受けている。

2. 今後、倫理委員会の承認を受ける予定である。

3. その他 ()

希望する協力分野：病理学、病態学、放射線学、医療工学

3. XAI (説明可能 AI) 技術を活用した次世代口腔リスク診断システムの開発

○財津 崇

(東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 健康推進歯学)

座長 片倉 朗 (東京歯科大学 口腔病態外科学)

①研究の背景 (これまでの実績を含む) と目的

高齢化社会で口腔ケアは健康長寿の鍵であり、特に口臭、歯周病、口腔乾燥は重要な課題である。しかし、現行の診断方法は高価で専門家の介入が必要なため、普及が難しい。AI 技術の進化により、舌画像を用いた簡便で高精度な診断システムの開発が期待されている。本研究は、東京医科歯科大学息さわやか外来の患者の舌画像から、XAI (説明可能 AI) 技術を用いて口臭、歯周病、口腔乾燥などのリスクを把握できる診断システムを開発することを目的とする。XAI 技術により、診断結果の透明性と信頼性を高め、ユーザーにわかりやすいリスク情報を提供する。これまでの研究では、東京工業大学チームと共同で、口臭症の患者 263 名を対象に、舌写真と口臭ガスクロマトグラフィーを用いて 3 つの予測モデルを構築し、最も優れたモデルは AUC=0.91 を達成している。

②研究内容の斬新性

本研究は AI と XAI 技術を融合し、スマートフォンなどの簡便なデバイスで利用可能な診断システムを開発する。従来の口腔ケアシステムは高価な機器と専門知識を必要とし、普及が限られていたが、本研究はその課題を革新的に解決する。XAI 技術を導入し、診断結果の根拠をユーザーに分かりやすく提示する点が特徴である。

③研究の発展性・進展性

本研究は、口腔ケア分野における AI 技術の新しい応用を提案する。従来の研究では AI 技術は診断補助ツールとして用いられていたが、本研究では XAI 技術を導入し、診断結果の透明性と解釈可能性を高める。これにより、AI 技術の信頼性と利用価値が向上する。このアプローチは他の歯学研究や医療分野にも応用可能である。

④関連領域とのグループ形成の有用性

本研究は、歯科と工学の連携を通じて、専門家が協力し、研究の質を向上させることを目指している。産学官連携の研究も視野に入れており、実用化と普及に向けた協力体制が整っている。

⑤倫理性 (該当するものに○印)

- ① 倫理委員会の承認を受けている。
2. 今後、倫理委員会の承認を受ける予定である。
3. その他 ()

希望する協力分野：AI 技術、データ解析、口腔衛生学、臨床歯科医療、健康情報学

4. 漢方薬は「オーラル・フレイル」の予防に貢献できるか

○^{ほし}星野^{てる}照秀^{ひで} ^{かた}片倉^{くら} ^{あきら}朗

(東京歯科大学 口腔病態外科学)

座長 山口秀紀 (日本大学松戸歯学部 歯科麻酔学)

①研究の背景 (これまでの実績を含む) と目的

老年歯科医学分野では口腔機能低下症の診断基準が明確化され、予防的な考えが注目されている。また、本年度に「オーラル・フレイル」に対してのチェックリストが作成され、さらに一層国民の関心が高まることが予想される。一方、臨床の診断基準を支持する基礎的な研究データは未だ少ない。我々は現在までに咬筋の老化に注目し、形態的・組織学的に探索を行ってきた。また、メタボローム解析を行って咬筋の老化に特徴的な代謝経路や代謝物質を明らかにした。本研究は「オーラル・フレイル」において漢方薬による有効性を検討した報告はないことに注目した。漢方薬である人參養榮湯が咬筋におけるサルコペニアの改善に寄与するかを検証する。漢方薬による「オーラル・フレイル」の予防への貢献を検証し、「オーラル・フレイル」の新たな対策法の開発の基盤を構築することを目的としている。

②研究内容の斬新性

薬物療法を介入した「オーラル・フレイル」の基礎研究は現在までになされていない。本研究では筋組織を用いてメタボローム解析を行う。さらに、変動を認めた代謝物質やタンパク質の発現解析まで行って、人參養榮湯の有効性や作用機序に関しても検討する点で斬新性があると考える。

③研究の発展性・進展性

「オーラル・フレイル」は生命の予後まで関連すると報告されており、予防が今後の重要な課題である。そのため、口腔のサルコペニアにおける分子レベルの解明が必要になってくる。人參養榮湯はフレイル予防に効果を示すことは報告されているが、これらの成果によって「オーラル・フレイル」の予防にも繋がることが明らかになれば、1剤でフレイルサイクルの回転を阻止することが可能になる。本研究はウェルビーイングに貢献し、老年歯科医学領域の発展への波及効果も期待できる。

④関連領域とのグループ形成の有用性

- ・薬理学分野：漢方薬が筋組織に与える影響についての評価
- ・分子生物学分野：代謝物から考える筋機能への影響の評価

⑤倫理性 (該当するものに○印)

1. 倫理委員会の承認を受けている。
 2. 今後、倫理委員会の承認を受ける予定である。
- ③ その他 (実験動物委員会で承認済み)

希望する協力分野：薬理学分野、分子生物学分野

5. 軽度認知障害患者の唾液中口腔細菌叢およびタンパクを 標的としたスクリーニング法の開発および 歯周病治療による認知機能低下予防の検討

○ 出分 菜々衣¹⁾ 守下 昌輝²⁾ 村岡 宏祐²⁾ 栗野 秀慈²⁾ 濱崎 朋子³⁾
田口 明⁴⁾ 吉成 伸夫¹⁾

¹⁾松本歯科大学 歯科保存学, ²⁾九州歯科大学 クリニカルクラークシップ開発学

³⁾九州女子大学 家政学部栄養学科, ⁴⁾松本歯科大学 歯科放射線学)

座長 増田宜子 (松本歯科大学 歯科保存学)

①研究の背景 (これまでの実績を含む) と目的

元気で歯科医院に通院される高齢者の患者が増加するなか、自立高齢者の認知機能と歯周病、口腔細菌叢との関連について明らかにすることを目的とした。本研究では全身疾患に罹患していない高齢者を対象とし、全身因子の影響が可及的にない状態で認知機能と口腔内の状態を分析した。対象は60歳以上の自立高齢者23名(男性14名、女性9名)で、現在歯数20歯以上、認知症および歯周病と関連する全身既往歴を認めない者とした。安静時唾液からの口腔細菌叢解析は16S rRNA 遺伝子部分塩基配列を標的としたアンプリコンシーケンス解析および予測メタゲノム解析を実施した。

その結果、認知機能低下群(N=11, 平均年齢81.1±7.6歳)は正常群(N=12, 平均年齢76.1±7.3歳)と比較し、現在歯数が少なく、歯周炎重症度のステージが高く、口腔機能(特に口唇、舌)の巧緻性および速度の低下を認めた(すべて $P<0.05$)。口腔細菌叢解析の結果、マイナーな細菌が均等に存在する確率が高く、歯周病関連細菌である *Tannerella* 属が検出された($P<0.05$)。また、口腔細菌の産生タンパクである Cytochrome C Oxidase Copper Chaperone COX11 および Soluble cytochrome b562 が、認知機能低下群において正常群よりも有意に割合が低下していた($P<0.05$)。よって、認知機能低下群では歯周病関連細菌やミトコンドリア機能変化により神経変性に関わるタンパクの存在が示唆された。

②研究内容の斬新性

自立高齢者の中でも認知症の前段階にある者をスクリーニングできる機会は医科においても少ないと考えられる。唾液にて危険性が少なく短時間で検査できるスクリーニング法の検討を行う。

③研究の発展性・進展性

歯科医院や年に一度程度の健康診断の場で、認知症前段階のスクリーニングとして多くの自立高齢者に活用できれば、早期介入による介護予防が可能になり、医療費の削減につながると考えている。さらに、歯周病治療によって認知症型口腔細菌叢を変化させることで、認知症予防に寄与すると考えている。

④関連領域とのグループ形成の有用性

脳神経内科とのグループ形成が可能な場合は、認知症の診断を受けた患者の唾液の提供を希望する。認知症には4つの病型があり、より多くの病型の唾液を比較、検討したい。また、歯科で医科の疾患スクリーニングでき、疾患の発症および発症の前段階を発見できる。

⑤倫理性 (該当するものに○印)

- ① 倫理委員会の承認を受けている。
2. 今後、倫理委員会の承認を受ける予定である。
3. その他 ()

希望する協力分野：歯周病学分野、高齢者歯科学分野、脳神経内科学分野

6. 高齢者の口腔感染症の防止と介護者の負担軽減に資する CPC 徐放・リチャージ義歯の開発

○^{なかにし}中西 ^{こう}康 ^{あかさか}赤坂 ^{つかさ}司 ^{よしだ}吉田 ^{やすひろ}靖弘

(北海道大学大学院歯学研究院 生体材料工学)

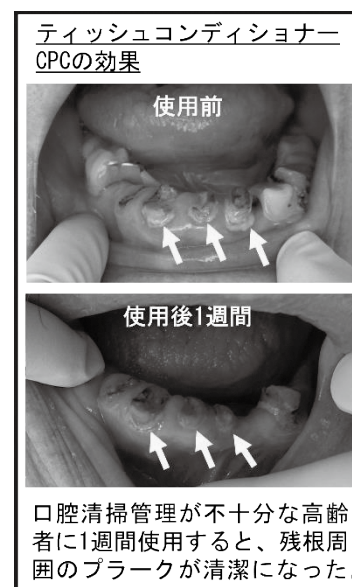
座長 西村正宏 (大阪大学大学院歯学研究科 クラウンブリッジ補綴学・顎口腔機能学)

①研究の背景 (これまでの実績を含む) と目的

義歯は清掃管理が不十分だと表面で細菌が増殖し、口腔粘膜異常や肺炎のリスクを増大させる。また、長期使用された義歯内部は菌の温床になる。徹底した義歯洗浄が必要であるが、高齢者数の増加や介護保険施設入所者の52.6%が義歯を使用している現状から、ひっ迫している介護現場にはさらなる負担となる。本研究では、義歯を清潔に保ち、介護負担を軽減するためリチャージ可能な殺菌性義歯を開発する。

②研究内容の斬新性

本研究では、塩化セチルピリジニウム (CPC) を数週間徐放でき、かつリチャージ機能をもつ新しい殺菌剤キャリア「CPC モンモリロナイト」(CPC-Mont) を用いる。そのため、開発品は、リチャージにより長期抗菌効果をもつ他に類をみない医療機器 (コンビネーションプロダクト) となる。我々は、コンビネーションプロダクトのガイドライン作成から製品開発までのノウハウをもち、CPC-Mont を用いた抗菌性短期弾性裏装材「ティッシュコンディショナー CPC」を上市した実績がある。



③研究の発展性・進展性

開発後は臨床研究を計画している。義歯無装着者よりも肺炎発症率を減少できれば、歯科材料により肺炎を予防する全く新しい手法を考案でき、医学研究や健康寿命の延伸に貢献できる。

また、CPC-Mont は、充填材、接着材など歯科材料だけでなく、医科材料や食器などにも応用可能である。

④関連領域とのグループ形成の有用性

本開発品は要介護者など義歯清掃が困難な者やその義歯を清掃する介護者に最も力を発揮する。安全に使用でき、現状よりも負担を軽減できる製品形態、使用方法 (リチャージ方法など) を決定するには介護現場 (介護分野、施設) との連携が必須である。

⑤倫理性 (該当するものに○印)

1. 倫理委員会の承認を受けている。
- ② 今後、倫理委員会の承認を受ける予定である。(開発後の臨床研究)
3. その他 ()

希望する協力分野：介護分野 (介護施設、介護士なども含む)、訪問診療分野

7. 天然歯と同等の歯周組織構造を有する次世代バイオインプラントの開発

○大島 正充

(徳島大学大学院医歯薬学研究部 顎機能咬合再建学)

座長 江草 宏 (東北大学大学院歯学研究科 分子・再生歯科補綴学)

①研究の背景（これまでの実績を含む）と目的

超高齢社会において、歯の喪失や機能障害に対する本質的解決は、国民の健康長寿に資する重要な課題である。口腔インプラントは、歯科医療を大きく変革する治療にまで発展したものの、天然歯のような歯根と歯槽骨を連結し、生理機能を担う歯周組織が存在していない。本研究では歯周組織の形成・成熟を促進するメカニカルストレスを付与する移植技術を開発し、永らく口腔インプラント治療の課題とされてきた天然歯の歯周組織の解剖学的構造と生理機能を完全に補填する次世代型のバイオインプラントを開発することを目的とした。

②研究内容の斬新性

従来型インプラントは骨結合により顎骨内に維持され、咀嚼機能や審美性に有用であるものの、天然歯のように歯周組織を介した生着ではないため歯の生理機能が欠如している。一方、本提案の歯周組織を有するバイオインプラントは、移植技術や生着様式が本質的に異なるものであり、失われた歯の生理機能を回復するとともに、顎骨成長中の若齢者への適用や天然歯との連結可能、外科的侵襲の低減、治療期間の短縮という点で斬新性が高く、技術的に優位性が高い。

③研究の発展性・進展性

本技術は、従来のインプラント治療技術をベースにしながらも、抜歯窩の歯周組織とメカニカルストレス付与を利用した移植技術によって、天然歯と同等の歯周組織結合による機能化を図るものである。すでに、ヒト臨床を想定した大型動物であるイヌモデルでの実証研究をほぼ完了しており、臨床研究に移行できるレベルにある。早期の実用化に向けて、現状では患者由来の抜歯窩の歯周組織を利用する戦略で進めているが、歯の欠損部における再生医療としてのバイオインプラント治療技術も基礎研究レベルで確立しており、今後の発展性・進展性も高い。

④関連領域とのグループ形成の有用性

歯周組織結合による顎骨生着を可能とする本技術は、骨結合型インプラントと比較して生着様式が本質的に異なるものであり、天然歯の歯周組織と同等の生着評価、機能解析、長期経過と管理、不調時の治療方法などの確立が必要であることから、歯周病態学分野の見解や技術が不可欠となる。また、歯周組織とインプラントとの結合を機能的かつ強固なものとするために、インプラント表層の表面改質などの技術開発が可能な歯科理工学分野との連携が有用と思われる。

⑤倫理性（該当するものに○印）

- ① 倫理委員会の承認を受けている。
2. 今後、倫理委員会の承認を受ける予定である。
3. その他（)

希望する協力分野：歯周病態学分野、歯科理工学分野

×E



A series of horizontal lines for writing, consisting of a solid top line, followed by 20 dashed lines, and a solid bottom line.

×E



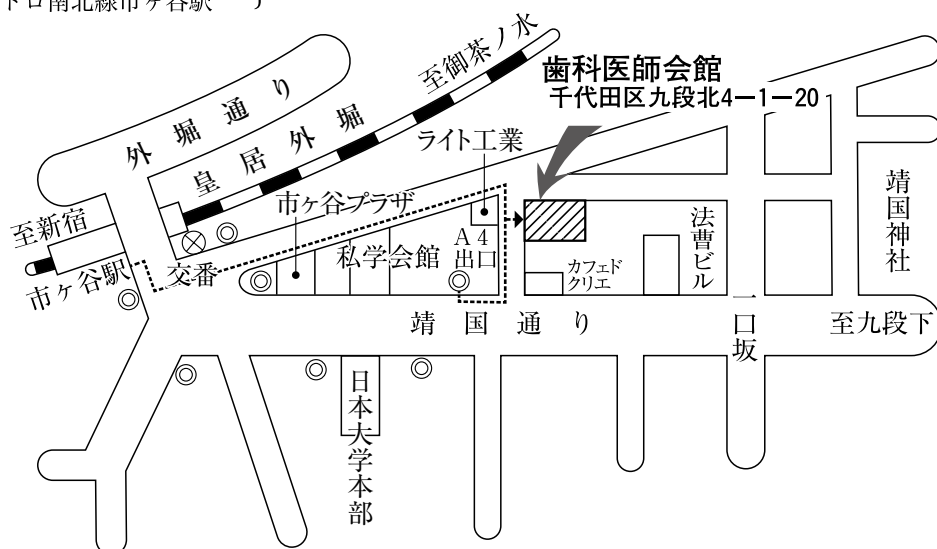
A series of 20 horizontal dashed lines for writing, followed by a solid horizontal line at the bottom.

<実施要領>

- 目的：学際的交流を通し，新しい研究分野の開拓と研究組織の結成を推進すること，また臨学産協同の具現化を目的とする。
- 主催：日本歯科医学会
- 日時：令和6年11月27日（水）
10：00 開会／14：30 閉会／14：40 ポスターディスカッション
- 会場：歯科医師会館 1階 大会議室
- 参加費：無料
- 申込：不要
- その他：本「集い」は日歯生涯研修事業における「特別研修」の対象となり，併せて個別演題毎の「受講研修」単位を最大7単位取得可能
- お問い合わせ先：日本歯科医学会事務局
〒102-0073 東京都千代田区九段北 4-1-20(日本歯科医師会内)
TEL 03(3262)9214 FAX 03(3262)9885
E-mail jda-jads@jda.or.jp

<会場案内図>

- JR 総武線市ヶ谷駅より徒歩5分
 - 都営地下鉄新宿線市ヶ谷駅
 - 東京メトロ有楽町線市ヶ谷駅
 - 東京メトロ南北線市ヶ谷駅
- } A4 出口より徒歩2分



◎・・・地下鉄市ヶ谷駅各出口